

三位一体

一枚の紙については表と裏を観察するように、ラグビーでは三位一体を基本ベースにしています。頭、胴、尾と3つの部位からなっている魚を思い描いてください。

ラグビーという競技について本質や独特の良さについてかんがえたり、戦い方や、強くなるためのチームづくりについて策を練るとき、また、ラグビーの試合を見て感想や批評を述べたりする時に、視点の置き方として、頭部、胴部、尾部と3つの部分に分けて分析し系統的にまとめると要領を得たものになります。絵にするならば、まず頭から描き初めそれから全体像を描くのが必須の順序です。

RFU では国の代表チームを結成するにあたり、まずキャプテンを決めてから選手の人選にはいるということを聞いていましたので、来日したイングランドチームのキャプテンに確かめますと「その通り」という答でした。代表チームにとって、キャプテンの人選と彼への信頼が最重要であるということです。キャプテンの意見を中心にチームが組織されていくのです。チームに監督はいなく、コーチはメンバーが最高の力を発揮し良い結果を残せるように助力するのが役目です。頭があって、胴があって、尾がついている魚の生態そのままの理にかなった構成法を学びました。このことはラグビーの identity でもあります。チームの中にプロ第一号の R.F.U. 技術顧問 Mr. Don Rutherford が加わっているという情報は得ていましたが、彼はメンバーの一員として No.23 でした。海洋国 Great Britain に於ける the Captain は全責任を持って方向を決め、判断し決定を下す船長であるという思想・常識が社会基盤としてあることは言うまでもありません。

各部の成り立ちと各部に含まれる機能と原理について整理しましょう。

・頭部：眼・口・脳

機能的には、生命源を取り入れる口、知覚を司る眼、志向判断と伝達の脳・脊髄

歴史認識による原理・identity への信念と追求

志向 原理・目標 Law's 3 will 追求具現

先見性 思考と判断

左脳駆使した理論原理の追求プレー

右脳働きによる 発想 flair あふれる展開

競技を楽しむ勝つ心・意識

good bright interesting game 創造 not effectively but wisely

先に上げたイングランドチームのキャプテンは、体格は大中小にわければ小に属する方で、温和で激しさの感じられない風貌で言葉も落ち着いて優しいものでした。試合中も華々しい活躍が目立ちませんでした。しかし、レセプションで賑わっていた会場で彼が挨拶を始めるとチーム全員直立不動、その場の日本人以上に真面目な顔になっているのにチームの統率というかキャプテンシーへの信頼と徹底の程を実感しました。

・胴部：脊柱が一本通っている。諸臓器、背びれ胸ひれ

肺・循環器・消化器他諸臓器

活動の元になる筋肉とその鍛練

プレーの継続力と不屈の精神力の元

身体に沸く勝利至上主義の勝利慾（よい試合を志向して勝つ精神は頭部に属する）

技術と継続レベルおよび作戦の向上

プレーの研究と医学・体育学の進歩による合理的効果的なフィットネス発達

・尾部：

脳の指令と筋肉運動による活動・志向の具現

いろいろなプレーや動きの強弱、大小、勢い、スピードなど、外側から目によくつく部分で、突進・タックル・サポート・かけ声など

端々（はしばし）の現象だけに目をやってしまうことが多い。

激しさの強調と誇張などから、格闘技であるという短絡的な認識と指導がなされたり、シャパンラグビー志向といった軽薄な取組みがなされたり、トライをしたプレーヤー一人だけを賞賛する傾向があります。aggressive tackle を攻撃的タックルと翻訳して補足もしないとい

うのもこの部類にはいるものです。

三位一体の前進活動についてまとめましょう。

総体として脊髄が縦に一本通っていて、バラバラではなく、筋肉の発達が強力な前進力を生み、皮膚の艶や脂ののり、目の輝きに生気があらわれています。個々のプレーヤーの集合体であるチームとしての統率と団結力。

目標を示す頭部の機能の発揮。

先年、サントリーが一段レベルの高い継続に挑戦しすばらしい結果をだしました。昨年より東芝が立ってプレーすることを目標にしています。東芝対 NEC で東芝選手がボールを持って突進しタックルされそうになった状況で、一般には相手に捕まるより当たっていくケースで、ハンドオフが相手の顔面に当たって写真が朝日新聞に掲載されていました。もちろん反則でありませんし、相手から逃げているのでもありません。倒れないで継続するために、立っている継続を象徴する顔の写真はそれを教示しているものです。一般のプレーヤーや、多くの愛好者がそこに気付き賛同し、それを志向する材料として貴重なものです。

瀬戸内の鯛の味が引き締まっておいしいのは、鳴門の潮流を泳ぎきっているから胴の筋肉が豊かでひきしまっているということです。厳しい環境に負けずに前進を続ける努力が成長向上の糧になるのです。胴に沸いた力と勝ちたい気持ち、目標を高く掲げ精進の結果として勝つことに勝利の美学があり、チームの明日につながるのです。

2006.10.07

西川 義行